

平成30年度 薬学部FD研究会報告

大井義明（文責）、古野忠秀（委員長）、茂木眞希雄、安池修之、上井優一、
小川法子、河村好章、井上 誠

愛知学院大学薬学部FD委員会

平成30年度薬学部FD活動としては、研究授業（「生体成分代謝学」：武井佳史教授、11月7日）、第1回FD講演会（「研究活動上の不正行為の防止について―国の動向を中心に―」久野浩平愛知学院大学研究支援課係長、6月21日）、第2回FD講演会（「卒業生からの提言～これからの薬学教育に必要なもの～」坪内里恵さん、八並ゆかりさん、服部雄太さん、永田隼也さん（本学卒業生）、2月18日）、ワークショップ（第1回「3ポリシーを踏まえた多面的評価 ―ループリックの活用法―」、9月7日；第2回「具体的な教育目標をイメージしたループリックの作成」、2月25日）を実施した。

研究授業は、2年生を対象に生化学の講義を行う「生体成分代謝学」にて実施し、多くの教員が参加した。その後の意見交換会では、授業の実施状況やスクリーンの使い方について、活発な意見が出された。

第1回講演会は、一昨年に本学で明らかとなった研究不正を受けて、研究不正の防止を目的に、研究支援課の久野氏を講師に迎え、国の動向を中心に講演を行った。教員41名の参加があった。

第2回講演会は、本学での教育を卒業生からの視点で評価してもらい、さらなる改善を目指す目的で、「卒業生からの提言～これからの薬学教育に必要なもの～」というタイトルで行い、4名の卒業生に講演をお願いした。現在の仕事の内容の紹介や、今後の薬学教育に望まれる内容などの提

言もあり、講演後には活発なパネルディスカッションが行われた。本学の教職員や学生、45名の参加があった。

第1回ワークショップは、薬剤師に求められる資質・能力を育成・評価するカリキュラム設計の全体像を踏まえて、ループリックの作成・活用法を理解するために、「3ポリシーを踏まえた多面的評価 ―ループリックの活用法―」というタイトルで実施した。学生のパフォーマンス評価を、ループリックを用いて行うための具体的な基準や項目を各班に分かれて作成した。薬学部教職員40名が参加した。

第2回ワークショップは、薬剤師に求められる資質・能力を育成・評価するループリックを、具体的な学生像を基に作成し、学部内での共通理解を深めるために、「具体的な教育目標をイメージしたループリックの作成」というタイトルで実施した。各班で理想的な薬剤師像をイメージし、現状の学生とのギャップから、段階的なループリックを実際に作成した。薬学部教職員42名が参加した。

研究授業

研究授業は、11月7日2限「生体成分代謝学」（2年生対象）（武井佳史教授）にて行われ、22名の教員が参加した。そのうち19名の教員がアンケートに回答し、その後の情報交換会には13名が出席した。

アンケートであった解答としては、講義資料について「見やすい・分かりやすい」、「目的がはっきり記載されている」とのコメントが多かった。講義については、「適度なスピードである」、「重要な点を意識させている」、「先週のまとめテストがよい」「教科書が活用されていないのでは?」、等が記載されていた。その他として「メモをとる学生が少ない」、「臨床的知見を加えてみては?」、「学生は集中して聞いているようだ」等の回答があった。

情報交換会で出た意見は、以下の通りである。

講義中における小テストの意義について、武井先生は「学生が限られた時間内で日本語を書くことを訓練している」と回答した。読む能力も鍛えて欲しいとの要望があった。講義の最初に教科書のページ数や SBO が記載されており、学生にとってわかりやすいとの意見があった。またほとんどの学生が教科書を開かず、プリントを見ながら講義を受けていた。教科書主体で講義を進める教員からは、その旨が学生へのアンケートに反映することが述べられた。資料が学生にとってわかりやすいとの意見が多く、武井先生から学生に講義後、プリントや教科書を参考に自分用のまとめを作成するよう指示していることが述べられた。講義中、武井先生がスクリーンをレーザーポインターで指す場面があり、「スクリーンとは別の画面を見る学生への対策が必要ではないか」との指摘があった。複数の教員が「タッチパネルを使い板書すると別画面にも反映される」と指摘したが、欠点として、同じ場所に立ち続けることによる学生の緊張感低下が挙げられた。武井先生は立ち位置を巧みに変更しており、学生の緊張感持続につながっているとの意見があった。また、ある装置を使うと立ち位置を変えながら、複数画面にポイントを指すことができるとの意見があった。また、「臨床的知見も含めて、学習の動機付けをしてはいかがか」との指摘に対して、武井先生は「今回

の講義では含めようがなかった」と返答した。

第 1 回 FD 講演会

「研究活動上の不正行為の防止について－国の動向を中心に－」

6 月 21 日に、研究支援課の久野浩平氏を講師に迎えて、上記のタイトルで講演会を行った。一昨年度、本学歯学部、薬学部教員による研究不正が明らかとなったことから、研究不正の防止に向けて講演会を行った。現在の国の動向を中心に講演していただいた。

第 2 回 FD 講演会

「卒業生からの提言～これからの薬学教育に必要なもの～」

2 月 18 日に、本学の卒業生である、坪内里恵さん（製薬企業 MR）、八並ゆかりさん（病院薬剤師）、服部雄太さん（総務省）、永田隼也さん（調剤薬局）を迎えて、上記のタイトルで FD 講演会を行った。それぞれの演者に、卒業後の経歴、現在の仕事の紹介、薬学部での教育に対する提言をしてもらった。

坪内さんからは、「考える力」や社会人としての「マナー」、就職後のスキルアップのための「薬剤師 + α」の特徴の重要性が提言された。

八並さんからは、病院における「感染症対策」、「緩和医療」、「救急対応」などにおける薬剤師の重要性が示され、「臨床推論」の薬学部における充実も提言された。

服部さんからは、大学での勉強の中から、自分の「好きなこと」や「得意なこと」を見出す重要性が提言された。薬学部に来たから、必ず薬剤師にならなければいけないという訳ではなく、将来には多様な進路が選択できるということを学生に気付かせるべきだという提言がされた。

永田さんからは、薬剤師の「コミュニケーション能力」の重要性が示され、他学年を含めた PBL

などで、コミュニケーション能力をもっと高めるべきだという提言がされた。また、現在の薬学におけるトピックである「ポリファーマシー」の問題についても大学で教育してはどうかという提言がされた。

第1回ワークショップ

「3 ポリシーを踏まえた多面的評価 ルーブリックの活用法」

第1回ワークショップは、成田秀夫氏（学校法人河合塾 教育イノベーション本部 開発研究職）を講師に招き、9月7日に行われた。以下の5点を目標にして行われ、40名の教職員が参加した。

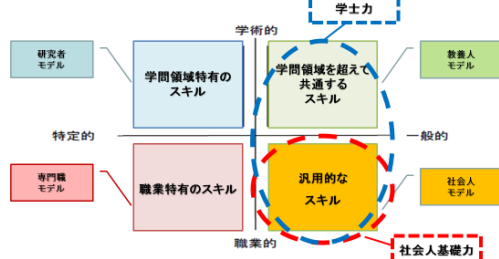
- ①高等教育で育成すべき資質・能力について理解する。
- ②資質・能力を育てるカリキュラム設計について理解する。
- ③資質・能力を多面的に評価する意義を理解する。
- ④ルーブリックの活用法について理解する。
- ⑤客観テストを併用する意義を理解する。

本学のディプロマポリシーやカリキュラムをふまえたうえで、学生の資質・能力を多面的に評価するために、パフォーマンス評価法であるルーブリック評価の特徴や限界などについて、講師からのレクチャーを受けた。レクチャーの資料は、以下の通りである。

高等教育で育成すべき能力

14

■ 高等教育に求められるスキル(Barnett)

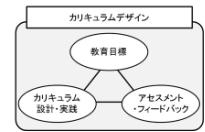


香川南子、古川美子「汎用的スキルに関する概念整理と育成評価方法の探求」を参考に作成
© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

資質・能力を育成する「逆向き設計」

22

- 従来の発想
 - ①まず教える内容を考えることから出発
 - ②教えた内容をアセスメント・測定



- 逆向き設計の発想
 - ①ゴール(教育目標:どんな能力を身につけさせるか)
 - ②アセスメント(測定方法を考える)
 - ③カリキュラム設計・実践(何をどう教えるか)

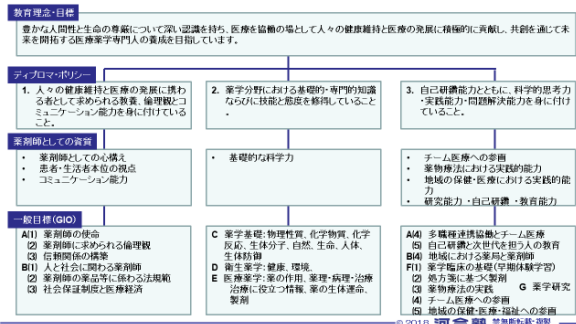
『理解をもたらしカリキュラム設計』(Wiggins, G & McTighe, J.2005 日本標準刊2012)

© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

資質・能力を育むカリキュラム開発

25

■ 愛知学院大学薬学部



© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

資質・能力を育むカリキュラム開発

27

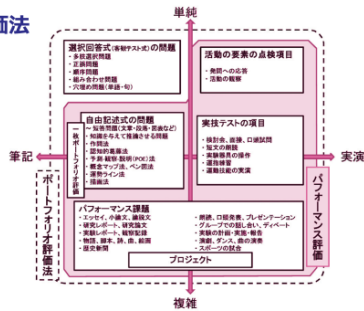
■ 愛知学院大学薬学部(私の感想)

- DP・薬剤師の資質-GIOが体系的に構築されています
- 薬学教育のスタンダード化
- ただし、カリキュラムマップ&ツリーはすっきり過ぎませんか？
- 学生目線で言うと
 - 「履修要項」からわかりにくい→読む気がしない
 - DP・薬剤師の資質-GIOまでが一覧できるといいな



© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

■ 多様な評価法



(西岡知宏監修「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう実装させるか (明治図書出版、2016) より抜粋)

© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

■ パフォーマンス課題

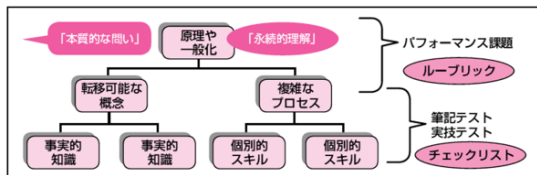
- リアルな状況で、さまざまな知識や技能を総合して使いこなすことを求めるような課題
＝使われる知識やスキル、特定の課題や文脈、生み出された作品

■ パフォーマンス評価の特徴

- ① 評価の **直接性** (パフォーマンスを実際に行わせて、それを直接、評価する)
- ② パフォーマンスの **文脈性** (パフォーマンスは具体的な状況の中で可視化され、解釈される)
- ③ パフォーマンスの **複合性** (それ以上分割すると本来の質を失うという、一まとまりのパフォーマンスを行わせる)
- ④ 評価の **分析性**と**間主観性** (そうした質の評価のために評価基準と複数の専門家の鑑識眼を必要とする)

© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

＜図表2＞「知の構造」と評価方法・評価基準の対応



(西岡知宏監修「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう実装させるか (明治図書出版、2016) より抜粋)

© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

■ 3つの層で評価する

三つの層	概要	評価手段
ユニバーサル	当該社会で求められる汎用的かつ比較可能な評価	・客観的テスト ・メタルーブリック
ローカル	当該教育機関が定めた目標に照らした評価	・ルーブリック ・調査書
パーソナル	生徒・学生固有の自己評価、及び持論の評価	・ポートフォリオ ・探究の成果物 ・エッセイ (持論)

© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

■ 評価領域と評価法

■ 知識：教科知識の定着

→従来通りの客観的なペーパー・テスト

■ 技能：教科固有の技能

→ルーブリックを用いたパフォーマンス評価

■ 思考力・判断力・表現力：知識を活用した課題解決

→ルーブリックを用いたパフォーマンス評価

■ 主体性・多様性・協働性：振るまい、態度

→ルーブリックを用いた観察評価／自己評価

講義

演習・体験

© 2018 河合塾 禁無断転載・複製

➤ 資質・能力の3つの柱の相関関係

	基礎学力	リテラシー	コンピテンシー	志向性	
平均学力	1.00				
教科学力	英語力Level 1	0.88	0.66	0.66	0.66
	数学力Level 1	0.88	0.66	0.66	0.66
	国語力Level 1	0.88	0.66	0.66	0.66
	総合	0.87	0.66	0.66	0.66
	リテラシー	0.87	0.66	0.66	0.66
リテラシー	情報収集力	0.87	0.66	0.66	0.66
	情報分析力	0.87	0.66	0.66	0.66
	情報発信力	0.87	0.66	0.66	0.66
	創造力	0.87	0.66	0.66	0.66
	総合	0.87	0.66	0.66	0.66
コンピテンシー	対人基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対自己基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対社会基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対自然基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対文化基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
志向性	対国際基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対未来基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対自己基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対社会基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66
	対自然基礎力	0.88	0.66	0.66	0.66

て採点してみると、評価者個人のブレや評価者間のブレなどがかなりあり、評価者同士、評価者と学生との間で「共通理解」が必要であることが再確認された。

- 2) 学生数が多くなると評価する教員も多く必要となり、教員間で評価基準にばらつきがある状態で公正な評価ができるのかといった問題点が認識できた。

●改善が求められる点

- 1) 今回のワークショップでは、本学のディプロマポリシーやカリキュラム、履修要綱について、他大学の状況をよく知る第三者の意見が聞けておおむね好評だった。改善点としては、レクチャーの時間が長くなり、予定していたグループワークがあまりできなかった点が挙げられた。この点は第2回のワークショップで行うこととなった。

第2回ワークショップ

「具体的な教育目標をイメージしたルーブリックの作成」

第2回ワークショップは、第1回と同様に成田秀夫氏を講師に迎え、2月25日に行われた。以下の5点を目標にして行われ、42名の教職員が参加した。

- ①理想的な「薬剤師」像をイメージする。
- ②理想像と学生の現状を比較し、そのギャップを認識する。
- ③現状の学生が理想的な薬剤師に育つまでのプロセスをイメージする。
- ④成長の段階を踏まえ「薬剤師」に求められている資質・能力をルーブリック化する。
- ⑤教員間の意識や教育観の異同を互いに理解する。

第1回ワークショップの内容を踏まえて、今回のワークショップでは「具体的な学生像」のイメ

ージを持って、ルーブリックをとらえなおして目指して、7グループ（6名／1グループ）に別れて議論した。テーマは、

- ①理想的な「薬剤師」とは？
- ②学生の抱える「課題」とは？
- ③3つの問題を解決するためのルーブリック作り。

で、場面に応じて能力、行動、態度などについてリストを作成した。各グループのプロダクトは、以下の通りである。

1 班

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょうか？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
服薬指導	プラスアルファの説明 薬物治療だけでなく 食事 運動の指導
一般の方 学生 医師・看護師 地域の人	不安を感じさせないような振る舞いが良い 患者の背景、環境を理解している
閉店近くに薬がない	適切な対応ができる
がん治療 副作用 予期しない症状	医療人としての倫理観をもとに対応できる 適切な対応ができる

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
試験、定期試験	間違いを素直にうけ入れない テスト、演習が理想の薬剤師像の形成につながっていることを理解していない やらなければならないことが後回し
卒業研究 卒業試験	自分の考えを述べる 自ら勉強することができない
人とのコミュニケーション	声が小さい。自信がない。話さない SNSに影響、一次資料をみない、自らの考えをいえない
	テスト、演習が理想の薬剤師像の形成につながっていることを理解していない やらなければならないことが後回し

■3つの問題を解決するためのルーブリック

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
人とのコミュニケーション（医療現場）	問題に対する具体的な解決策を提案できる	状況を理解して、自分の意見が言える	声が小さい 自分の意見をいえない
専門的知識の活用	卒業研究（状況にあった正確な知識を選択できる問題に対して、多角的な検証ができる）	EBMに基づいた知識の活用（統合型学習）	インターネットなどの情報の引用（内容の正当性は評価していない）（演習・実習）
服薬指導	患者の背景を理解し、患者の求める医療を提供できる	マニュアルに従って対応ができる	シュミレーション上マニュアルに従って対応する

■3つの問題を解決するためのルーブリック

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
情報収集	自ら情報を効率よく収集できる	情報収集できる	必要な情報がわからない
自己表現	自分の考えや意見を適切に表現できる	自分の考えや意見を言える	自分の考えや意見を言えない
相手の満足度	十分に納得し、満足してくれる（信者）	納得してくれる	納得できない（疑う）

2 班

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょうか？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
一般社会	自己研鑽・自己で問題解決する能力 他者への思いやり 協調性 十分な知識
現場	高い知識
患者と接する	コミュニケーション能力
医師と接する	正確な知識の共有

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
独り	不足している知識を理解して勉強、努力し新しい知識を自分で収集できる
医療現場	騙されてもいいと思える薬剤師 信用できる 納得させる知識 自己研鑽 コミュニケーション 多職種連携
薬剤の交付	コミュニケーション能力 対応能力 十分な知識

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
試験前	学力ない 方法、学力 知識不足 モチベーション 知識の整理、知識の抽出、構成力 要領が悪い
生活	社会人マナーがない、あいさつができない 時間の使い方（集中力）
対人	自分の考えをはなせない
研究	調べない、まとめない、自分の意見がない 受け身

3 班

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょうか？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
・友人、一般生活	・普通に会話ができる
・薬局、調剤室	・知識の応用ができる ・自己研鑽を怠らない（個人PDCAサイクル） ・薬剤師としての知識が発揮できる ・研修会などに参加する（お互いに高めあえる）
・対 医療者	・論理的な話ができる ・薬剤師の役割を増やしていける（地位を向上できる） ・医師、看護師の話を理解できる
・対 患者	・患者から情報を引き出せる ・患者に正しい情報を伝えられる ・治療に対する意欲を向上させる（心理的ケアができる） ・よりシリアスな症例に対して理解を深める（簡単な症例はAIなどで対応可能になるはず）
・対 国、自治体	・法律、制度を正しく理解し、改善のために意見を発信できる ・薬剤師としての価値を示すこと（向上すること）ができる

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
・研究室	・立場に応じた振る舞いをする ・論理的に説明 ・挨拶 ・周囲への配慮、気配り ・自分から仕事を見つける ・常識
・情報収集	・英語能力が低い ・日本語の読解力が足りない ・手段を知らない（経験不足）
・一般生活	・モチベーションが低い ・ずる賢くなれ（効率が悪くても、改善できない） ・将来の夢がない ・PDCAサイクル ・内弁慶が多い
・臨床現場	・知識が行動に反映されていない ・先が見通せない

■3つの問題を解決するためのルーブリック

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
読解力	日本語で書かれた専門書を読み、内容を理解し、一般の方に伝えることができる。英語で書かれた文章についても内容を理解できる。	日本語で書かれた専門書を読み、内容を理解することができる。	一般向け書籍を読み、内容を理解することができる。
論理的思考能力	資料から問題点を見つけ出し、他の人に解決策を論理的に説明できる。	資料から問題点を見つけ出し、自分なりの解決策を論理的に導き出せる。	資料から問題点を見つけ出せる。
学習意欲	自分の個性を活かした将来像を思い描き、自ら計画を立て、学習に取り組むことができる。	卒業、国家試験に向けて、自ら計画を立て、学習に取り組むことができる。	進級に向けて、自ら計画を立て、学習に取り組むことができる。

■3つの問題を解決するためのルーブリック

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
対人：薬学的視点から処方提案ができる能力。	臨床現場で、薬学的問題点を抽出できる。 例：「フェノバルの持続点滴において製剤中の有機溶媒がシリジポンプを溶解する」	課題に対して解決策を提案して遂行できる。 例：「Na塩製剤を提案できる」	指示された解決策を遂行できる。 例：容量・投与方法を設定する等
対自己：薬剤師になった後のビジョンのある社会人になる能力	自身の将来像を明確化し、幅広い情報・選択肢を検討した上で、自身の進路を決定することができる。	実務実習やインターンシップ等で現場や社会を理解し、自身の進路を決定することができる。	国家試験をゴールとせず、キャリアデザインが必要であることに気付く。
対課題：研究課題に対して、自立して遂行することができる能力	研究課題の遂行する上で必要な小目標を設定し、指導教員と議論を重ねながら遂行できる	研究課題の遂行する上で必要な小目標を提案できる	研究課題を理解し、他者に説明することができる

5 班

4 班

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょうか？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
臨床業務の中で	患者の思いに沿った薬剤師 自己中心的でない薬剤師 医療従事者とのコミュニケーションが取れる薬剤師 退院後の生活のケアのできる薬剤師 学会や勉強会で発表できる薬剤師 治療効果や服薬状況を把握できる薬剤師 自己研鑽（勤務外）できる薬剤師 専門分野の科学的知識を利用できる薬剤師
社会人スキル	医療制度を理解している薬剤師 新しい概念に対応できる薬剤師 積極的に行動できる薬剤師 人間関係を築ける薬剤師

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょうか？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
病院内	適切なコミュニケーションをとることにより患者さんの気持ちを汲み取ることができ、患者さんに寄り添うことができる。また、チーム医療の一員として適切な薬物療法を提案できる。
薬局、ドラッグストア	患者さんの症状を的確に把握でき、適切な服薬指導を行うことができる。また、患者さんの健康増進に貢献でき、疾患予防に寄与することができる。さらに地域住民に正確な医療情報を発信することができる。

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
病院	薬に関する基礎知識、医学に関する基礎知識、コミュニケーション能力、関連付ける能力
対課題	基礎的な知識、問題解決能力、活用する力、情報を活用する力、自己研鑽、積極性
対人	役割分担、後輩教育、コミュニケーション能力
全般	意欲、広い視野、積極性、自分に対する自信

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
研究	大きな課題から小さな問題点を発見して解決する
就職・キャリアー	活動の視野く積極性が乏しい 将来の目標がない 社会に目が向いていない
学習	教科書が読めない（日本語力の理解が乏しい） 臨床業務とのつながりが分からない 学んだことのoutputができない 目的が分からずモチベーションが上がらない
全体的に	理想と現実の薬剤師像が分からない 学生間でのコミュニケーション 自分の意見を持ってない 国家試験合格がゴールになっている（受け身になっている）。 協調性がない

■3つの問題を解決するためのルーブリック

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
患者さんとのコミュニケーション	患者さんから多くの情報を得て、相手の立場に応じたコミュニケーションをとることができる。	患者さんと一般的なコミュニケーションをとることができ、会話のキャッチボールができる。	一方的に情報を伝えることができる。
薬に関する基礎的な知識とそれを活用する力	薬に関する深い知識を有し、それを用いて現実の問題を解決することができる。	薬に関する基礎的な知識を有し、問題解決に取り組むことができる。	薬に関する基礎的な知識を得るための努力をする。
薬剤師としての自己研鑽能力	広い視野を持ち、様々な講演会に参加することにより自己研鑽し、他者から目標とされるような薬剤師になれるよう努力する。	目標とする薬剤師像を定め、自分に足りない部分を補うような活動を行い、目標に近づく努力をする。	目標とする薬剤師像を定め、自分に足りない部分に気付くことができる。

6 班

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょう？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
患者に対して	初めて来たときの応対と服薬指導＝疾患を予測しそれに基づいて処方箋を適切に監査できる。また相互作用や検査値を加味して服薬指導ができる コミュニケーション力＝患者の背景に合わせたコミュニケーションができ、相手の情報を聞きだせるとともに自身の考えを正しく伝えることができる。
調剤（薬相手）に対して	医薬品（散剤、水剤、軟膏、注射薬）の無菌調製を適切に行うことができ処方箋監査を患者背景に基づいて行い適切な疑義照会ができる カルテ薬歴などから必要な情報を適切に収集しその情報に基づいて処方の適切性を判断できる。
医療スタッフに対して	コメディカルが必要としている情報を適切に提供することができる。
自身に対して	基礎的な能力と自身の目的を明確に持った自己研鑽ができる。 就業時周りの状況に応じて適切な対応ができる

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
定期試験	勉強開始が遅い 理解を深めようとし 勉強時、周囲を利用しようとし ない
自己研鑽	向上心＝研究室と同じ
問題解決能力	研究、成績・・・etc. 目の前の情報や、実験結果をもとに考察し効果的に表現することができる。
キャリア、将来	どのような薬剤師像を見据えているか 将来質の高い薬剤師になるためにどのように実務実習をこなすか。

■3つの問題を解決するためのルーブリック（卒研を想定）

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
研究遂行能力	与えられた研究テーマの結果と考察を基に問題点を設定・解決し、より研究を深化することができる。	与えられた研究テーマをすすめて、結果を導き考察することができる。	与えられた実験テーマを理解し、すすめることができる。
コミュニケーション能力	論文やデータ等の根拠に基づいた情報を正しく伝え、指導者から必要な情報を聞き出すことができ、現在の問題解決のみならず研究の発展に繋がる議論ができる。	データ等の根拠に基づいた情報を伝え、指導者から必要な情報を聞き出すことができ、現在の問題解決に繋がる議論ができる。	データを示し、それに基づいた議論ができる。
情報の収集と活用	自発的に資料の収集を行い、その資料の信頼性を正しく判断することができ、自身の研究に有効に活用できる。	自発的に資料の収集を行い、自身の研究に有効に活用できる。	指示された通り資料の収集を行い、自身の研究との関連性を理解できる。

7 班

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょう？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
ドラッグストア 対患者	患者のニーズを聞き取り、そのニーズを満足する薬を提案できる。適切にコミュニケーションが取れる。 薬剤を渡した後も、経過をフォローし問題点を見つけ出し解決できる。相手の年齢や理解度を判断して患者が分かるように伝えることができる。
調剤薬局（大手）	処方に従って調剤できることだけでなく、患者さんの病気の悩みも聞ける。 OTCで対応可能な状態か、病院に行ったほうがよいかを判断し、十分に対応できる。細かな気配りができる。注意深い。
大学病院薬剤部	薬の知識を多くもち、副作用の情報を普段から気に掛ける。抗がん剤の処方など最新の論文から読み取り、医療チームに提案できる。 患者の現状を的確に理解し問題点を見つけ出し、解決できる。
対医師	もてる能力すべてを発揮し、処方の監査を行い修正点を提案し合意を得られる。

■理想的な「薬剤師」とはどのような人なのでしょう？

場面	発揮される能力、期待される行動・態度
対薬剤師同士	円滑にコミュニケーションをとり、業務が適当に行われるように改善点を指摘、行動に移せる。
対創薬専門家	相手とは別の観点でよりよい薬物設計、治療が行えるよう助言を交換、協同できる。
多職種とのカンファレンス チーム医療	全診療科の薬を把握していることが期待される。 医師の専門外の薬の知識が必要。 コミュニケーション能力がある。首をつっこんでいける能力がある。
地域コミュニティ	情報を把握し、地域に貢献できる。

■目の前にいる学生の「課題」とはどのようなことでしょうか？

場面	課題とされる能力・行動・態度
定期試験	知識量の少ない学生がいる。試験問題を応用力を問うものになると急激にできなくなる。自主性・目標がない。課題を解決できても、発見できない。
卒業研究・実習	自分の研究結果を自分の言葉で説明できない。原稿を棒読みすることはできるが、その場で考えて発することができない。次にどのような実験をしたらよいか考えることができない。自分が何が分からないかわからない。疑問点を言語化、共用できない。コミュニケーションがとりにくい。積極的に参加しようという意志がない。自分の将来にどう役立つかわからず行っている。
グループワーク	コミュニケーションに積極的に参加しようとし ない。
講義	講義の内容を理解できない。日本語の理解力がない。 薬剤師になろうという学習意欲が感じられない。自主性がない。目標レベルの設定が低い。基礎学力が足りない。勉強の仕方が分かっていない。自己研さん能力が低い。

場面	課題とされる能力・行動・態度
日常生活	挨拶ができない。話がスムーズにできない。敬語ができない。コミュニケーション能力が不足している。相手の立場になってものを考えられない。

■3つの問題を解決するためのルーブリック

資質・能力の定義	理想レベル	標準レベル	改善レベル
学力・知識力	十分な基礎学力をもち、臨床の現場で薬物治療の提案ができるほどの応用力がある。	実務実習に臨むために必要な基礎学力はある。	基礎学力がなく論理的な思考ができない。勉強する習慣がない。
コミュニケーション能力	他者の意見を十分に聞いたうえで、自分の意見を論理的に述べられる。	日常会話を円滑にでき、状況を弁えた発言ができる。	挨拶ができない。他者と話すことができない。状況を弁えた発言ができない。
意欲	理想的な薬剤師像を描き、それに向けて様々なことに意欲的に行う。課題を選ばず何事にもやる気をもつ。	課題によっては、やる気があり、自発的に主体性をもって、行うことができる。	与えられた課題は行いうが、自発的に調べるなどができない。勉強する習慣がない。

本ワークショップは、次のように総括された。

●良かった点

1) 学生のパフォーマンス評価の手法としてのルーブリック評価の特徴や限界点などが教員間に浸透してきたように感じられた。一方、新たな問題点として、科目間の評価基準の統一や教員間の違いをなるべくなくすための方策など、課題が多いことも認識できた。

●改善が求められる点

1) 上記のような問題点が議論で挙がったが、そ

の改善策などを話し合うことはできなかった。
次回以降のワークショップで議論すること
なると思われる。

【総括】

今年度も薬学部 FD 活動として、1 回の研究授業、2 回の講演会、2 回のワークショップを実施し、それぞれに多くの教員が積極的に参加した。特に、ワークショップにはほぼ全ての教員の参加が得られ、薬学部教育の現状、今後の課題について、共通認識を持てたと考えられる。

今年度は初めて、卒業生を招いての FD 講演会を行い、本学の教育に対する提言を聞くことができた。卒業生の現在の活躍を知ることが出来たと同時に、本学の教育に関しても有意義な意見を聞くことが出来た。

薬学部 FD 委員会ではこれらの取組みを通じて、薬学部の全入学生に対して、多様な観点から高度な医療人専門教育を推進するためのサポートを進めていく。